

〈資料〉

ダンスの学習内容と楽しさの検討 —創作ダンスと現代的なリズムのダンスの比較—

中村 恭子*・浦井 孝夫**

A research of the study contents and its enjoyment in dance lessons:
A comparison of Creative Dance to Contemporary Rhythm Dance

Kyoko NAKAMURA* and Takao URAI**

1. 緒 言

平成10年度の学習指導要領改定⁶⁾により、ダンス領域では従来の創作ダンス、フォークダンスに加えて新たに現代的なリズムのダンスが導入され、これらから選択履修できるようになった。著者らの先行研究⁷⁾⁹⁾によると、現代的なリズムのダンスは「生徒の興味関心が高い」「踊る楽しさを体験させやすい」などの理由から採択を希望する教員も多く、複数種目実施を含む実施率は平成13年度では約35%、平成15年度では約55%と急速に増加する傾向が認められ、創作ダンス（複数種目実施率65%）に並ぶ主要な種目となってきていることが報告された。また、体育の授業時数の縮小に伴うダンス配当時間の減少から、創作ダンスもしくは現代的なリズムのダンスのいずれか1種目のみを学校選択で実施している学校が多いことが確認された。

学習指導要領解説⁵⁾によれば、創作ダンスと現代的なリズムのダンスの学習内容はどちらも「踊る」「創る」「観る（発表する）」の3要素を含む運動技能と自他の認め合い、交流などの態度、お

よびそれらの学び方をねらいとしている。しかし、創作ダンスがグループ活動による創作学習を中心として「踊る」「創る」「観る」の全習学習を確立しているのに対し、現代的なリズムのダンスは学習内容や学習方法が十分研究されておらず、多くの学校が「踊る」学習（教師の一斉指導による既成作品の踊り方習得学習）のみを展開している実態が報告されている⁸⁾。種目採択に際しては、このような学習内容の実質的な違いが学習成果に及ぼす影響について検討する必要がある。

体育の目標の一つとして、生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力の育成⁶⁾が掲げられている。スポーツやダンスなどの自己目的的活動は楽しさによって内発的に動議付けられる⁴⁾といわれていることから、将来にわたる運動への動機付けには楽しさの体験が重要といえる。その意味で学習内容と楽しさの関係を分析することは意義がある。これまでに創作ダンス学習の楽しさについての研究²⁾³⁾はいくつか見受けられるが、現代的なリズムのダンスの楽しさについては十分な研究がなされていない。また、両種目を俯瞰した研究は行なわれていない。

そこで本研究は、創作ダンスおよび現代的なリズムのダンスの楽しさを構成する要因を共通な視点で分類するための基礎資料を作成し、それにもとづいて各種目の学習内容と楽しさの関係を検討

* ダンス運動学研究室
Dance Movement

** 体育科教育学研究室
Sport Pedagogy

することを目的とした。

2. 方 法

2.1 調査方法

創作ダンスもしくは現代的なリズムのダンスを実施した高等学校の生徒を対象に質問紙調査を実施した。調査項目は①各種目を楽しいと思うか(非常に楽しい, まあ楽しい, あまり楽しくない, 非常に楽しくない, の4段階評価), ②各種目を楽しいと思う理由, 楽しくないと思う理由(自由記述)であった。また, 各校の授業内容を授業観察および担当教員への面接取材により調査した。

なお, 調査に際しては各校の担当教員に研究目的を説明し, 同意を得た上で協力を依頼した。

調査期間は平成16年9月から17年3月であった。

2.2 調査対象および授業内容

調査対象校は平成16年度に創作ダンスもしくは現代的なリズムのダンスを実施した公立高等学校3校とした。各校の授業内容および対象は, A校は創作ダンス7時間, 1年女子137名, B校は創作ダンス15時間, 現代的なリズムのダンス3時間, 1年女子101名, C校は現代的なリズムのダンス14時間, 1年女子63名であった。ただしB校では創作ダンスの授業のウォーミングアップとして現代的なリズムのダンスを毎回5分程度取り入れており, 実質的には現代的なリズムのダンスを4～

5時間実施していた。A校およびB校の創作ダンスの学習内容は「ダンス課題学習」(松本1981)¹⁾にもとづいた1時間完結の即興創作学習および作品創作・発表であり, グループ活動による主体的学習であった。B校およびC校の現代的なリズムのダンスの学習内容は教師の一斉指導による既成作品の踊り方習得学習が中心であった。

創作ダンスを履修した生徒の合計は238名, 現代的なリズムのダンスを履修した生徒の合計は164名であった。ただし, 無効回答を除いた有効回答数は調査項目ごとに異なった。

3. 結果および考察

3.1 各種目に対する楽しさ評価

各種目に対する楽しさ評価の割合は, 創作ダンス(有効回答210)では, 非常に楽しい19.5%, まあ楽しい52.4%, あまり楽しくない22.4%, 非常に楽しくない5.7%であった。現代的なリズムのダンス(有効回答122)では, 非常に楽しい31.1%, まあ楽しい55.7%, あまり楽しくない11.5%, 非常に楽しくない1.6%であった。非常に楽しい, 楽しいを合わせた肯定群はそれぞれ71.9%, 86.9%で, 比率の差の検定の結果, 現代的なリズムのダンスを楽しいと評価する生徒は創作ダンスを楽しいと評価する生徒より1%水準で有意に多かった。(表1) このことから, 現代的なリズムのダンスは創作ダンスと比較して楽しさ

表1 各種目に対する楽しさ評価

		創作ダンス n (%)	現代的なリズムのダンス n (%)	u 値
肯定群	非常に楽しい	41(19.5%)	38(31.1%)	-2.40*
	まあ楽しい	110(52.4%)	68(55.7%)	-0.59 n.s.
	計	151(71.9%)	106(86.9%)	-3.15 **
否定群	あまり楽しくない	47(22.4%)	14(11.5%)	2.47*
	非常に楽しくない	12(5.7%)	2(1.6%)	1.78 n.s.
	計	59(28.1%)	16(13.1%)	3.15**
回答総計		210(100 %)	122(100 %)	

* p<0.05, ** p<0.01

を体験させやすいといえる。

3.2 各種目の楽しさ構成要因の分類

自由記述の回答をKJ法により分類した。その際、「踊る」「創る」「観る」の3つの学習場面での学習内容に関する記述であるかの視点をもって分類した。分類に際しては理由が明確な記述を有効回答とし、意味内容ごとに部分を抽出して採用した。その結果、踊る学習場面に関する要因として①運動技術、②踊る欲求、創る学習場面に関する要因として③創作過程、④協力・交流（グループ活動）、発表する学習・観る学習場面に関する要因として⑤発表・鑑賞、の3場面5項目が抽出された。さらに5項目の中に細目を設けることを試みたが、創作ダンスと現代的なリズムのダンスの学習内容が異なることから全てを両種目に対応する要因に分類することは困難であった。（表2）

3.3 各学習場面がもたらす楽しさ

各種目の各学習場面に起因する楽しさについて分析した。以下、文中の「 」は感想文の記述

例、（ ）は細目および回答数である。

3.3.1 踊る学習場面の楽しさ

創作ダンスの踊る楽しさの理由としては、①運動技術では「動き方の決まりがなく、好きなようにできる」(不定形17)「運動技術・経験の有無に関係なくできる」(技術不問8)、②踊る欲求では「全身を使って思いっきり動ける」(踊る楽しさ38)「自分のやりたいことを表現できる」(表現の自由9)「いつもと違う自分を表現できる」(変身の面白さ4)などが抽出された。これらは、自由に動きを創出して踊る創作ダンスの運動特性に起因する楽しさと考えられる。

反面、楽しくない理由としては、①運動技術では「イメージどおりに動けない」(表現力不足8)、②踊る欲求では「ヒップホップが踊りたい」(他種目への嗜好15)「課題の動きが面白くない」(動きの好みの不一致5)などが抽出された。

一方、現代的なリズムのダンスの踊る楽しさの理由としては、①運動技術では「難しい振りができるようになった達成感」(技術習得12)、②踊る

表2 各種目の楽しさ構成要因の分類（複数回答）

場面	項目	創作ダンス n=201		現代的なリズムのダンス n=119					
		楽しい理由(n)	楽しくない理由(n)	楽しい理由(n)	楽しくない理由(n)				
踊る	運動技術	不定形	17	表現力不足	8	技術習得	12	運動技術難	30
		技術不問	8	制約	5	技術指導	2	制約	2
踊る	踊る欲求	踊る楽しさ	38	他種目嗜好	15	踊る楽しさ	43	本格志向	7
		表現の自由	9	動きの好み不一致	5	欲求の充足	23	動きの好み不一致	5
		変身の面白さ	4	曲の好み不一致	1	曲の好み	20	曲の好み不一致	1
創る	創作過程	創意工夫	55	創作困難	26	創作逃避	4	時間不足	5
		主体的活動	39	時間不足	8	創意工夫	3	創作困難	1
		創作力の向上	6	創作逃避	4				
創る	協力交流	協力	35	非協力	9	交流	7	不参加	1
		交流	32	意見の不一致	5	協力	1		
		他者認知	2	不参加	1				
観る	発表鑑賞	評価・賞賛	10	羞恥心	15	達成感	9	評価拒否	5
		理解・共感	7			安心感	1		
		達成感	5			理解・共感	1		

欲求では「音楽のリズムに乗って踊る楽しさ」(踊る楽しさ43)「ヒップホップが踊れた嬉しさ」(欲求の充足23)「知っている曲,好きな曲だとれる」(曲の好み20)「動きがかっこいい」(動きの好み19)などが抽出された。これらは、流行の曲に合わせた既成作品の踊り方習得学習に起因する楽しさと考えられる。

反面、楽しくない理由としては、①運動技術では「動きが難しくて、うまくできない」「振りを覚えるのが大変」(運動技術難30)、②踊る欲求では「もっと本格的な踊りがしたい」(本格志向7)「振り付けや曲が面白くない」(動きの好みの不一致5)などが抽出された。これらから、既成の動きの習得学習では全ての生徒の運動技術、体力レベル、好みの個人差に対応することは難しいことが示唆された。

3.3.2 創る学習場面の楽しさ

創作ダンスの創る楽しさの理由としては、③創作過程では「ひとつのものを作り上げる過程の面白さ」(創意工夫55)「自分たちで好きなようにテーマや曲を選べる、動きを考えられる」(主体的活動39)④協力・交流では「友達と協力しあっている」(協力35)「普段交流のない人とも友達になれる」(交流32)などが抽出された。グループ活動による創作学習は主体的創造的活動の楽しさや仲間とともに創る喜びをもたらすと考えられる。これはまた、仲間との交流の態度や創作過程における学び方の学習としても有意義な成果をもたらすものと考えられる。

反面、楽しくない理由としては、③創作過程では「イメージに合わせて動きを作るのが難しい」(創作困難26)「創作の時間が足りない」(時間不足8)が抽出され、それゆえに「踊りを作るのは大変、面倒くさい」「決まったものを覚えるほうが楽でいい」(創作逃避4)といった学習意欲の低さも見られた。また、④協力・交流では「グループに協力的でない人がある」(非協力9)「友達と意見が合わないと大変」(意見の不一致5)などが抽出され、グループ活動での人間関係の葛藤がマイナスイメージをもたらす一因であることが分かった。

一方、本研究の現代的なリズムのダンスは既成作品の踊り方習得学習が中心であったため、創る学習に関する回答はほとんど見られなかった。わずかに③創作過程として「自分で動きを考えなくてすむ」「決まった振りを組み合わせるだけでいい」(創作逃避4)など、創作不要を喜ぶ安易な学習態度にもとづく肯定回答が抽出された。また、④協力・交流では「みんなで踊ると一体感がある」(交流7)が抽出されたが、これは動きの同調による一体感であり、内面的な個の交流の成果は期待し難い。

3.3.3 発表する・観る学習場面の楽しさ

創作ダンスの発表する・観る楽しさの理由としては、「自分の表現が見ている人に分かってもらえると嬉しい」(評価・賞賛10)「他の班の発表を見て個性の違いを勉強できる、感動する」(理解・共感7)「完成した作品を踊ることが達成感、充実感がある」(達成感5)などが抽出された。発表・鑑賞により、自他の認め合いや交流がなされているといえる。また、発表鑑賞は学習成果の確認であり、次の活動への動機付けとなる²⁾ため、この学習場面での楽しさ体験は有意義と考えられる。反面、楽しくない理由として「人前で踊るのが恥ずかしい」(羞恥心15)が抽出され、自己表現に対する自信の育成が課題と考えられる。

一方、現代的なリズムのダンスの発表する・観る楽しさの理由としては、「みんなの動きがそろってかっこいい」(達成感9)が抽出された。反面、楽しくない理由として「上手い下手がはっきりするので嫌」(評価拒否5)が抽出された。同一の動きを習得して踊る学習内容からは技術的な達成感や一体感が得られるが、技術に対する自信がない者にとっては苦手意識を刺激することになり、個人差に対応した技術レベルの設定が課題と考えられる。

3.4 学習内容別の回答率

図1,2は各種目の回答者数に対する各学習場面・学習内容ごとの回答率(複数回答)を示したものである。創作ダンスでは踊る欲求38.0%のほか、創作技術32.2%、協力・交流35.6%の3項目を中心に回答が分散していたが、現代的なリズム

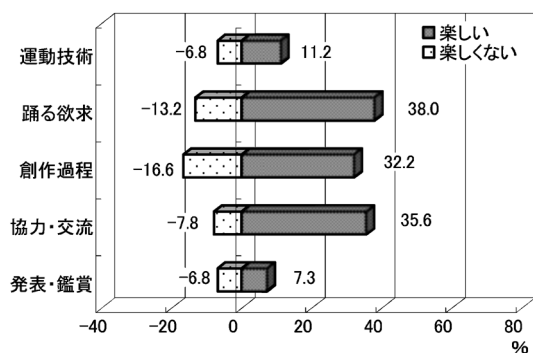


図1 創作ダンスの楽しさに関する学習内容別回答率

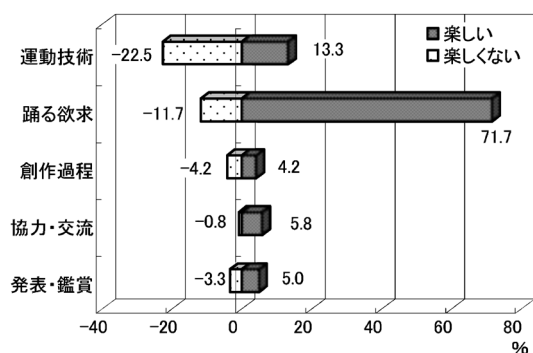


図2 現代的なリズムのダンスの楽しさに関する学習内容別回答率

のダンスでは踊る欲求71.7%に集中していた。すなわち、創作ダンスの楽しさは踊る学習のほか、創作学習での創意工夫や主体的活動、グループ活動における協力・交流など多様な学習内容に起因しているに対し、現代的なリズムのダンスの楽しさは、踊る学習に起因した楽しさに限定されている傾向が認められた。

4. まとめ

4.1 各種目の学習内容と楽しさ

以上の結果から、各種目の学習内容と楽しさの関係は以下のようにまとめられた。

1、創作ダンスはグループ活動を中心とした即興創作学習および作品創作・発表を通じて「踊る」

「創る」「観る」の3要素を包含した学習内容を行った結果、創作過程は困難さを感じさせるものの、自己表現による踊る楽しさのほか、創意工夫や主体的活動の楽しさ、仲間との協力、交流、発表での賞賛、共感、達成感などの楽しさと喜びをもたらすと認められた。また、運動技能だけでなく、態度や学び方の学習においても成果が期待できると認められた。

2、現代的なリズムのダンスはより多くの生徒から楽しいと評価されていた。しかし、教師の一斉指導による既成の踊り方習得学習がもたらす楽しさはほとんどがリズムに乗って踊る楽しさに限定されており、「創る」「観る」学習にもとづく楽しさや学習成果は得にくいと認められた。また、態度や学び方の学習においてもあまり成果が期待できないと認められた。

これから、ダンス学習では各種目の特性を重点化、明確化しながらも、「踊る」「創る」「観る」の3つの活動をバランスよく取り入れていけるよう学習内容を検討し、充実させる必要性が示唆された。

4.2 本研究の限界と今後の課題

本研究の調査対象校における現代的なリズムのダンスは、学習指導要領が示すあるべき学習内容とは異なっていた。学習指導要領のねらいに見合った学習内容を実施している学校を選出して再調査する必要がある。

また、本研究は自由記述の感想文からの質的分析であり、調査対象校も生徒数も限られていた。本研究の分析結果を手がかりとしてダンスの楽しさの要因を提示し、それにもとづいた量的調査を実施して研究を深めることが今後の課題である。

文 献

- 1) C. Matsumoto (1981) Dance research; Problem situation and learning of problem solving, *Proceedings of the IX Congress, IAPESGW*, 185-204.
- 2) 松本千代栄他 (1992) *ダンスの教育学* 大修館書店.
- 3) 松本富子, 高橋健夫, 長谷川悦示 (1996) *子供か*

- ら見たダンス授業評価の構造—中学校創作ダンス授業に対する評価の分析から—, *スポーツ教育学* 16, 47-54.
- 4) M. Csikszentmihalyi, 今村浩明訳 (2000) *楽しみの社会学*, 新思索社.
- 5) 文部科学省 (1999) *高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編*, 57-63, 東山書房.
- 6) 文部科学省 (1999) *高等学校学習指導要領*, 1-14, 96-103, 大蔵省印刷局, 東京.
- 7) 中村恭子, 浦井孝夫 (2005) 中学校における体育の種目選択性に関する研究—ダンス領域を中心とした現状と問題点—, *順天堂大学スポーツ健康科学研究* 9, 52-56.
- 8) 中村恭子, 武井正子, 浦井孝夫 (2003) 「現代的なリズムのダンス」の実施状況と教員の意識に関する研究—学習目標と学習内容の検討—, *日本体育学会第54回大会号*, 616.
- 9) 中村恭子, 武井正子, 浦井孝夫 (2002) 高等学校におけるダンス授業のカリキュラムに関する研究—実態調査にもとづいて—, *順天堂大学スポーツ健康科学研究* 6, 94-105.

(平成17年10月12日 受付)
 (平成18年1月17日 受理)